

入善町教育センター運営委員会

2月10日(月)に第2回入善町教育センター運営委員会を開催しました。

本年度実施した教育センター事業の報告や各学校から寄せられた教育センターの運営に関する要望・改善、令和2年度教育センター事業案等について、運営委員の方々に協議をしていただきました。

本年度実施の事業については、参加された方々から概ね参考になってよかったとの評価をいただき、次年度の事業も先生方のご要望にお応えできるよう努めていきたいと思っております。

なお、「令和元年度入善町教育センターの運営に関する意見・要望と次年度へ向けての改善」をまとめた冊子を各学校に配布しましたのでご確認ください。



ICT活用研修会～WeDo2.0を活用して～

2月19日(水)にICT活用研修会を開催しました。

次年度から必修化となるプログラミング教育の指導力向上をねらいとして、入善小学校の谷口翔平先生が、WeDo2.0を活用したプログラミングの授業を公開しました。参加された方々からは、「子供たちの柔軟な思考が見られた」「授業の流れや場の設定が参考になった」等の有意義な内容であったことが分かる意見が多数聞かれました。



令和2年度の主な研修予定より

◇ 魚津地区教育センター協議会の講演会・研修会予定 ◇

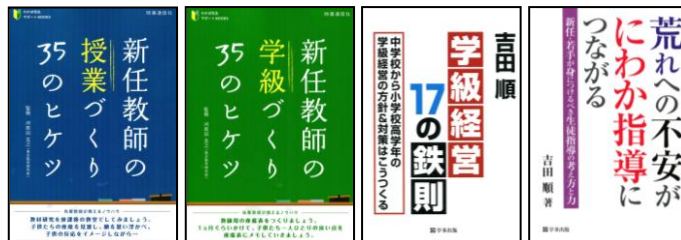
講演会・研修会名	生徒指導に関する講演会	外国語活動に関する研修会	道徳に関する講演会
期 日	8月5日(水) 午後	8月7日(金) 午後	8月26日(水) 午後
会 場	うるおい館(入善町)	中央公民館(黒部市)	うるおい館(入善町)
講 師	生徒指導コンサルタント 吉田 順 先生	富山大学大学院教職実践開発研究所 研究科長 岡崎 浩幸 先生	上越教育大学大学院 報徳 巖 早川 裕隆 先生

◇ 入善町教育研修会の予定 ◇

研修会名	入善町学力向上研修会
期 日	6月26日(金) 午後
会 場	うるおい館 イベントホール
講 師	早稲田大学教職大学院 教授 田中 博之 先生

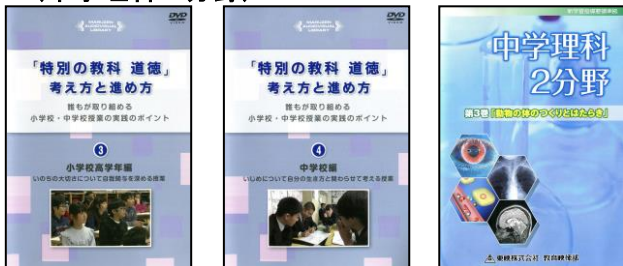
☆ 新規購入図書を紹介 ☆

- ◆「新任教師の授業づくり 35のヒケツ」
監修：河原田 友之
- ◆「新任教師の学級づくり 35のヒケツ」
監修：河原田 友之
- ◆「学級経営 17の鉄則」
著者：吉田 順
- ◆「荒れへの不安がにわか指導につながる」
著者：吉田 順



☆ 新規購入DVDの紹介 ☆

- ◆「特別の教科 道徳」考え方と進め方③(高学年編)
- ◆「特別の教科 道徳」考え方と進め方④(中学校編)
- ◆第3巻「動物の体のつくりとはたらき」
(中学理科2分野)



3月中に教育図書・ビデオ・CD-ROM・DVD等の目録を配布します。利用方法も明記しますので、ご覧の上、ご活用ください。

編集後記

「カンブリア宮殿」という番組で紹介されたある老舗の会社社長の話の中に、「軸は変えずに枝葉を変えていく」という経営コンセプトがあり、心に残っています。長年変わることのない伝統を軸にしながら、時代の変化やニーズに合わせた革新という枝葉を変えていくことが、会社の成長へと繋がっているようです。まさに、昔から言われる「不易」と「流行」だと考えます。教育界では、いよいよ小学校で新学習指導要領が全面実施となります。「読み・書き・計算」「豊かな人間性」等といった「不易」の軸は変えずに、「外国語科」「プログラミング教育」等といった「流行」の枝葉を変えながら、子供たち一人一人の成長に繋げていくことが大切だと改めて感じています。

本年度、センター運営にご協力いただき、ありがとうございました。

発行：入善町教育センター
〒939-0626

富山県下新川郡入善町入膳 5232-5

うるおい館3階

TEL:0765-72-0009 FAX:0765-74-2792

Eメール: nyuzen-ec@tym.ed.jp

ホームページ: http://www.nyuzen-c.tym.ed.jp



「初任の頃を振り返って」

入善町中学校長会
会長 高澤 優

私が初めて教職に就いたのは、昭和57年の春。赴任したのは、全校生徒約1200名の中学校でした。大学を卒業したばかりで経験不足の新米が、ベテランや中堅教員に混じって学級担任を任されましたが、先輩方のように学級の生徒をうまくまとめることもできず、「こんなはずじゃない。」と右往左往しながら、疲労感だけが募る毎日だったように思います。今思えば、当時の中学校では、教育の荒廃が叫ばれていて、全国的に校内暴力の嵐が吹き荒れ、いじめや不登校の問題も顕在化し始めていた時期でした。しかし、このような困難な状況にあっても、問題行動を起こす生徒が少なく、生き生きと活動する学級集団をつくりあげている先輩教員がその初任校にいました。そこで、自分の学級がうまくまとまらないのは、教師としての力量が決定的に足りないとまず自覚しなければならないことを痛感しました。そして、自分と先輩教員の指導や学級経営では、どのような点が違うのかを学び、まねることから始めなければならないと強く思いました。

しばらくすると、指導や学級経営において先輩教員と自分とは決定的に違っていたことに気付くことができました。それは、学級集団の中での班の活動が非常に活発であり、班や学級全体での話し合い活動が十分に行われていたことでした。日々の学校生活の中で起こる様々な問題を自分たち自身の問題として捉え、解決に向けて取り組んでいる生徒の姿がありました。そして、その生徒の話し合いの中に先輩教員が明るく、積極的に関わっている姿を目の当たりにしました。このような活動をこつこつと積み上げていく中で優れたリーダーが育ち、次第に学級集団としてまとまっていくのだと教わったように思います。また、集団づくりのことが書かれた本を読むことも薦められました。全国の実践事例から様々なノウハウを知り、自分の授業や学級経営に取り入れたものがたくさんありました。

日々の自分の教育実践を見直し、先輩教員から学んでいくことは、本当に大切だと思います。学校は、昔も今も集団で活動する場です。子供同士のよりよい関わり、子供と教師のよりよい関わり、教師同士のよりよい関わりがあってこそ、活気のある素晴らしい学校が作りあげられていくと思います。そして、このような学校で積極的に学び合い、子供も教師も人としてより成長していったほしいと願っています。